

中小企業動向調査

この調査は富山県内企業422社を対象に実施し、305社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成21年10月～12月の実績、平成22年1月～3月の見込み、平成22年4月～6月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成21年12月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	199	141	70.9%
非 製 造 業	223	164	73.5%
計	422	305	72.3%

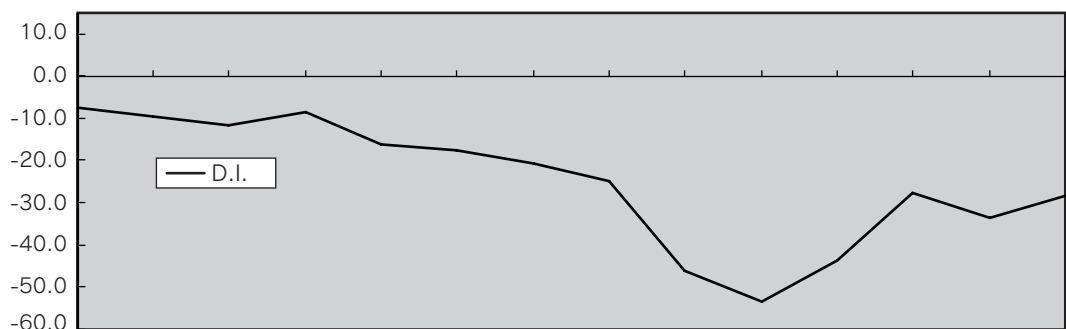
日銀が2月10日に公表した、北陸の金融経済月報（2010年2月）によると、「北陸の景気は、依然として厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられている。

最終需要をみると、設備投資は大幅に減少しているほか、公共投資はこのところ増勢が鈍化している。一方、輸出は中国等アジア向けを中心に引き続き増加している。個人消費は、全体としては弱い状況にあるが、一部には政策効果から持ち直しの動きが続いている。また、住宅投資は下げ止まりつつある。企業収益は、低水準にあるほか、雇用・所得も引き続き厳しい状況が続いている。先行きは、海外経済の改善や経済対策の効果を受けて、全体として持ち直しの動きが続くとみられる。」と発表している。

I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

期別 種別	（%）													
	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
良 い	17.6	13.4	13.6	14.6	12.6	12.9	8.4	9.4	4.4	3.4	3.6	7.9	6.0	6.6
普 通	57.4	63.5	61.1	62.3	58.4	56.6	62.2	56.3	44.7	39.8	49.0	56.4	59.6	53.0
悪 い	25.0	23.0	25.3	23.1	29.0	30.5	29.4	34.4	50.9	56.8	47.4	35.6	34.4	40.5
D . I .	-7.4	-9.6	-11.8	-8.5	-16.4	-17.6	-21.0	-25.0	-46.5	-53.4	-43.9	-27.7	-28.5	-33.9

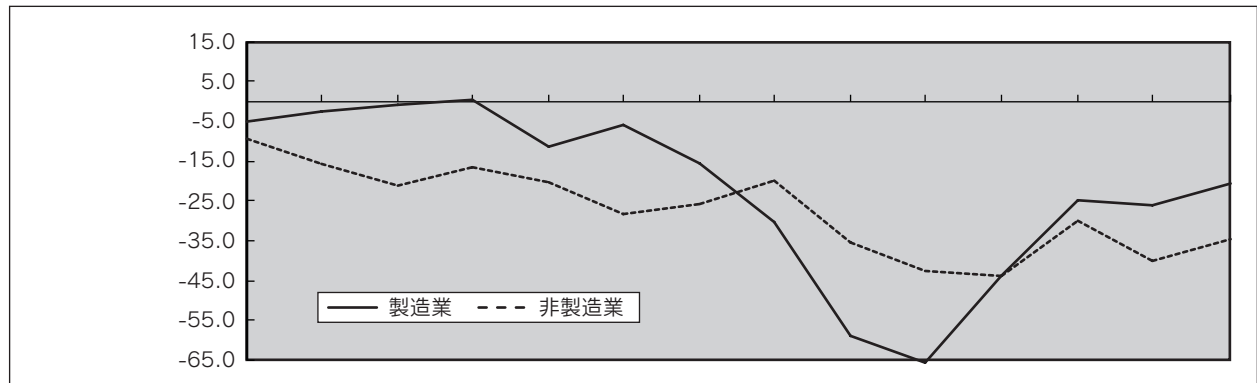


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

		（%）												見込	予測
期別 種別	19 年				20 年				21 年				22年		
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
良	い	18.1	16.7	20.0	19.9	14.6	16.3	10.2	8.4	2.6	0.7	5.7	10.0	9.9	9.4
普	通	58.5	64.0	58.9	60.8	59.1	61.2	64.1	52.6	35.5	33.1	44.7	55.0	53.9	60.4
悪	い	23.4	19.4	21.1	19.4	26.3	22.5	25.7	39.0	61.9	66.2	49.6	35.0	36.2	30.2
D . I .		-5.3	-2.7	-1.1	0.5	-11.7	-6.2	-15.6	-30.5	-59.4	-65.6	-44.0	-25.0	-26.2	-20.9

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

		（%）												見込	予測
期別 種別	19 年				20 年				21 年				22年		
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
良	い	17.1	10.5	7.8	9.8	10.8	9.7	6.7	10.2	6.0	5.8	1.8	6.1	3.7	3.1
普	通	56.5	63.2	63.1	63.7	57.7	52.2	60.6	59.6	52.5	45.7	52.7	57.7	52.1	58.9
悪	い	26.4	26.3	29.1	26.5	31.4	38.2	32.8	30.1	41.5	48.6	45.6	36.2	44.2	38.0
D . I .		-9.3	-15.8	-21.4	-16.7	-20.6	-28.5	-26.1	-19.9	-35.5	-42.8	-43.8	-30.1	-40.5	-35.0



- (1) こうした北陸の状況の中で富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い－悪い」の21年10～12月期実績は▲27.7と前期比16.2ポイント改善した。先行きについて、22年1～3月期のD.I.は▲33.9となり、22年4～6月期予想は▲28.5と悪化すると予想した回答となった。D.I.は、21年4～6月期を最低ポイントとして、改善してきているが、先行きは不安な回答となった。
- (2) 業況判断指数D.I.の21年10～12月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より19.0ポイント改善し、▲25.0となった。先行きもやや悪化見込の回答となっている。非製造業については、今期は13.7ポイント改善し、▲30.1となった。非製造業は、先行きに対して、22年1～3月は▲40.5と悪化する予想となっている。22年4～6月期も今期より、悪化予想となっている。

II. 売上高状況

売上高状況

(%) 見込 予測

種別 \ 期別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
増加	31.6	28.5	26.0	31.5	30.1	26.5	26.0	18.5	11.8	12.7	10.0	14.5	14.5	15.1
横ばい	40.7	41.7	42.2	40.4	39.2	41.2	40.9	35.4	28.0	24.1	24.9	29.9	29.9	46.4
減少	27.7	29.8	31.8	28.2	30.7	31.6	33.1	46.1	60.2	63.2	65.0	55.6	55.6	38.5
D. I.	3.9	-1.2	-5.9	3.3	-0.5	-5.7	-7.1	-27.6	-48.4	-50.5	-55.0	-41.1	-41.1	-23.4

売上高状況（うち製造業のみ）

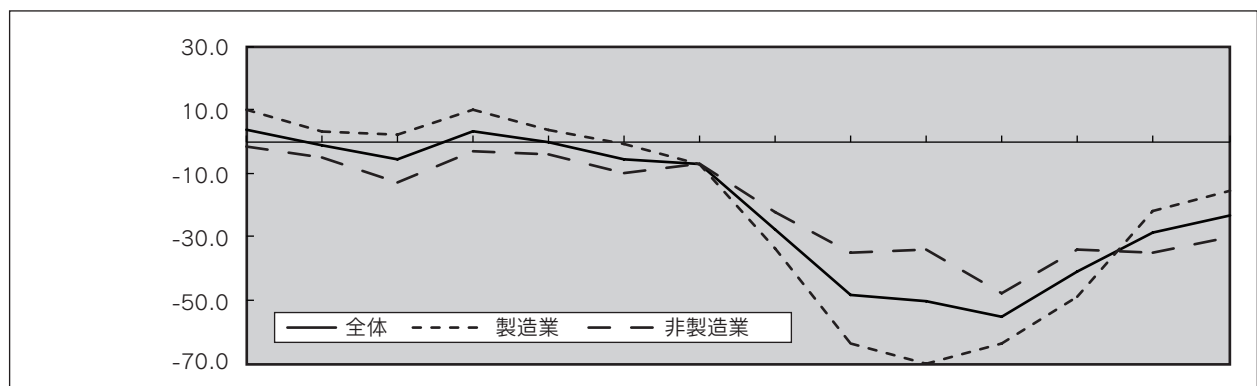
(%) 見込 予測

種別 \ 期別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
増加	34.7	31.6	31.0	36.5	34.0	30.6	28.6	17.1	7.8	7.4	7.8	13.4	13.4	21.3
横ばい	40.5	40.0	40.2	37.1	3.5	37.8	35.7	32.2	20.6	15.4	20.6	23.9	23.9	41.8
減少	24.8	28.5	28.8	26.3	30.4	31.7	35.7	50.7	71.6	77.2	71.6	62.7	62.7	36.9
D. I.	10.0	3.2	2.2	10.2	3.5	-1.1	-7.1	-33.6	-63.9	-69.8	-63.8	-49.3	-49.3	-15.6

売上高状況（うち非製造業のみ）

(%) 見込 予測

種別 \ 期別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
増加	28.9	25.8	21.4	26.9	26.8	22.8	23.6	19.8	15.2	17.2	11.9	15.4	15.4	9.8
横ばい	40.8	43.2	43.9	43.3	42.3	44.4	45.6	38.3	34.2	31.6	28.6	35.2	35.2	50.3
減少	30.3	31.0	34.6	29.8	30.9	32.8	30.8	41.9	50.5	51.1	59.5	49.4	49.4	39.9
D. I.	-1.4	-5.2	-13.2	-2.9	-4.1	-10.1	-7.1	-22.2	-35.3	-33.9	-47.6	-34.0	-34.0	-30.1



- (1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。今回調査では、前期より13.9ポイント改善し▲41.1となった。先行きについても、改善予想となっており、22年1～3月期は▲28.9との回答であった。また、22年4～6月期予測は▲23.4であり、更に改善の予想となっている。
- (2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業で分けると、前期比製造業、非製造業とも改善した回答であった。製造業は14.5ポイント、非製造業は13.6ポイント改善した。また、先行きについては製造業は改善予想となっているが、非製造業は横ばい予想である。

Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

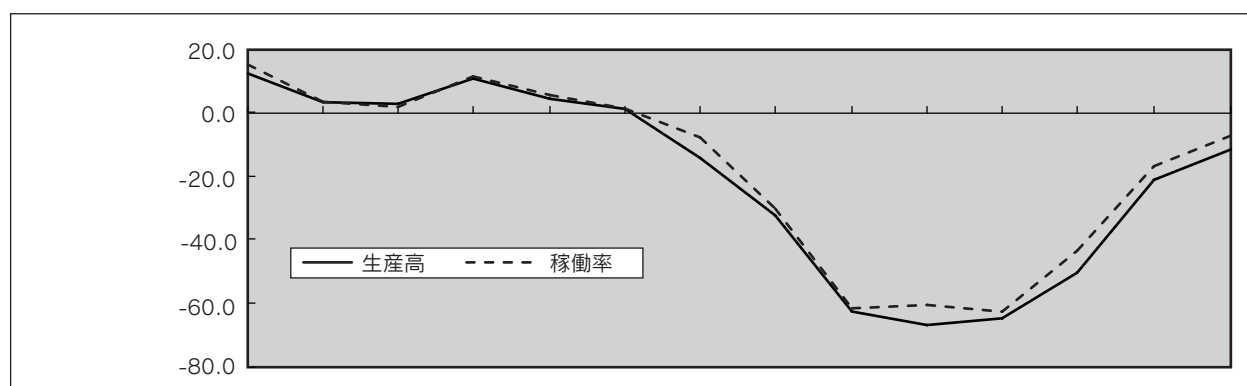
(%) 見込 予測

期別 種別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
20%以上増加	6.5	4.4	8.1	7.9	4.4	5.9	1.8	1.9	1.3	0.7	0.0	2.2	8.0	8.1
20%未満増加	27.2	26.4	21.4	27.5	28.8	24.1	21.2	14.6	5.9	5.2	7.1	9.5	17.5	16.2
横ばい状況	45.1	41.8	43.9	39.9	38.1	41.2	39.4	34.8	22.9	21.6	20.6	26.3	27.7	39.7
20%未満減少	19.0	24.2	23.1	21.3	25.6	26.5	30.3	35.4	33.3	32.7	36.2	38.0	35.0	28.7
20%以上減少	2.2	3.3	3.5	3.4	3.1	2.4	7.3	13.3	36.6	39.9	36.2	24.1	11.7	7.4
D . I .	12.5	3.3	2.9	10.7	4.4	1.2	-14.5	-32.3	-62.7	-66.7	-65.2	-50.4	-21.2	-11.8

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
上 昇	5.1	5.6	5.9	6.9	4.6	7.2	2.6	1.9	0.7	0.7	0.0	2.9	9.5	9.6
やや上昇	28.2	20.8	18.9	25.3	27.8	21.7	19.9	13.5	5.4	6.6	8.1	10.2	16.8	14.0
横ばい	48.6	50.6	52.1	47.1	40.4	43.4	47.4	39.1	26.2	25.0	21.3	29.9	30.7	45.6
やや下降	16.9	20.8	18.3	17.8	23.8	25.3	24.4	30.1	30.2	22.4	33.1	38.0	30.7	22.1
下 降	1.1	2.2	4.7	2.9	3.3	2.4	5.8	15.4	37.6	45.4	37.5	19.0	12.4	8.8
D . I .	15.3	3.4	1.8	11.5	5.3	1.2	-7.7	-30.1	-61.7	-60.5	-62.5	-43.8	-16.8	-7.4



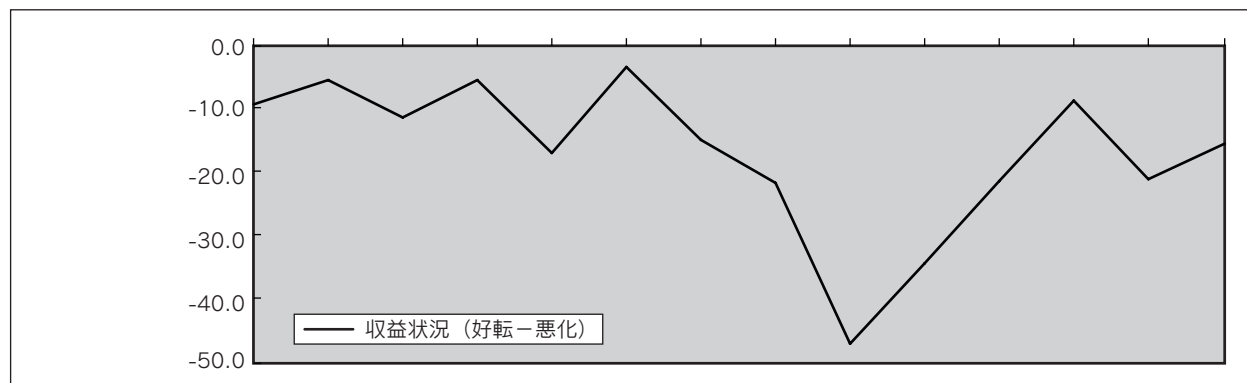
- (1) 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.Iは、前期比14.8ポイント改善し▲50.4となった。先行きについては、更に改善し、▲21.2、と29.2ポイント改善する予想となっている。
- (2) 稼働率状況D.Iも、前期比18.7ポイント改善し、▲43.8となった。先行きについても、改善見込となっており、1～3月期は27ポイント改善するとしている。稼働率は前期が底とみられ、ポイントは改善していく傾向となっている。在庫調整も進み、稼働率は回復に向かっているとみられる。

IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

種別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
好転	19.2	16.6	12.4	18.5	16.1	20.1	12.7	12.7	5.6	11.1	13.5	17.1	8.2	9.2
横ばい	52.5	61.3	63.9	57.5	50.8	56.5	59.5	52.8	41.9	43.5	51.4	57.2	62.6	66.1
悪化	28.4	22.1	23.7	24.1	33.1	23.4	27.7	34.5	52.5	45.4	35.0	25.7	29.2	24.7
D.I.	-9.2	-5.5	-11.3	-5.6	-16.9	-3.3	-15.0	-21.7	-46.9	-34.3	-21.5	-8.6	-21.0	-15.5



好転理由

(%) 見込 予測

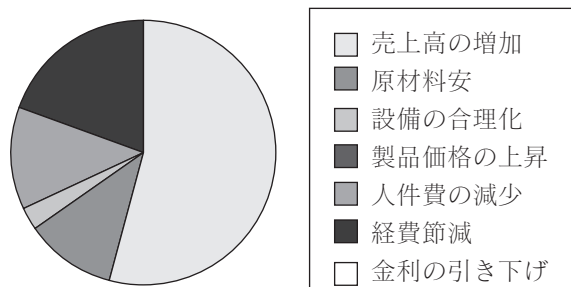
種別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
売上高の増加	69.4	61.4	66.2	64.4	58.9	57.0	65.1	64.3	52.5	49.2	63.9	54.2	62.9	60.0
原材料安	3.1	1.1	1.5	2.3	2.2	0.9	4.8	14.3	12.5	6.6	8.2	11.1	5.7	10.0
設備の合理化	4.1	4.5	3.1	2.3	2.2	1.9	0.0	1.8	5.0	6.6	1.6	2.8	5.7	5.0
製品価格の上昇	6.1	6.8	7.7	6.9	14.4	17.8	11.1	5.4	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0
人件費の減少	6.1	3.4	3.1	6.9	5.6	6.5	3.2	1.8	12.5	18.0	11.5	12.5	8.6	7.5
経費節減	11.2	21.6	16.9	16.1	13.3	15.9	12.7	12.5	17.5	6.4	14.8	19.4	17.1	15.0
金利の引き下げ	0.0	1.1	1.5	1.1	3.3	0.0	3.2	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	2.5

悪化理由

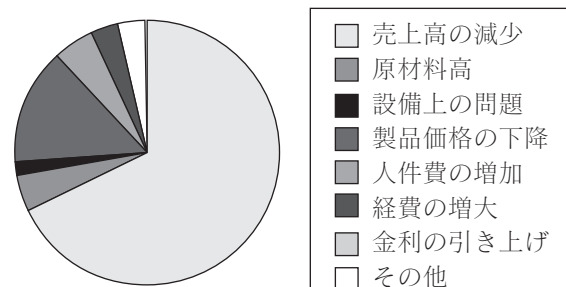
(%) 見込 予測

種別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
売上高の減少	55.7	47.2	17.6	48.0	53.0	46.2	43.3	60.6	68.6	64.9	62.7	68.1	64.0	63.2
原材料高	18.4	25.0	21.0	26.3	29.2	31.7	30.4	14.3	6.3	4.8	3.6	4.2	4.4	4.4
設備上の問題	0.0	1.4	2.1	1.3	0.0	0.0	1.8	0.0	0.8	1.0	1.2	1.7	3.7	2.6
製品価格の下降	5.1	6.9	11.9	5.3	4.8	4.8	8.2	11.4	12.5	18.3	16.6	14.3	13.2	14.9
経費の増大	7.0	10.4	10.5	11.8	5.4	9.0	9.4	6.9	5.1	5.3	7.7	5.0	6.6	8.8
人件費の増加	6.3	2.8	4.2	5.3	5.4	4.8	4.1	4.0	4.7	4.8	4.1	3.4	2.9	3.5
金利の引き上げ	2.5	2.8	0.0	0.0	0.6	1.4	0.6	0.0	0.4	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0
その他	5.1	3.5	2.8	2.0	1.8	2.1	2.3	2.9	1.6	0.5	3.6	3.4	5.1	2.6

好転理由



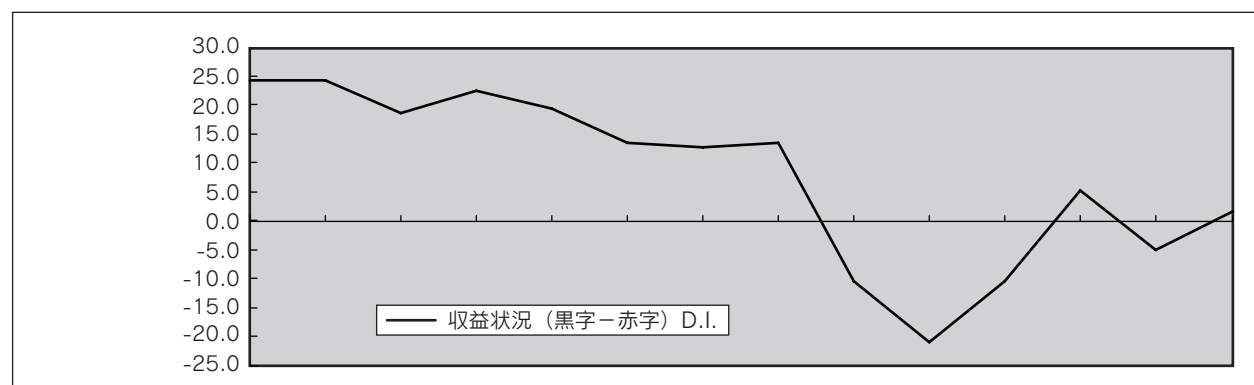
悪化理由



- (1) 収益状況「好転－悪化」D.I.は前期比12.9ポイント改善し、▲8.6となった。収益状況は21年1～3月期を底に改善してきている。しかし、先行きでは、22年1～3月期▲21.0と悪化する予想となっている。
- (2) 今期収益が好転した理由は、「売上高の増加」とするポイントが高いが、前期比では低下した。「経費の節減」、「原材料安」を理由とするポイントが前期比高くなった。先行きについても、「売上高の増加」「経費節減」とする理由が高いポイントとなっている。
- (3) 収益が悪化した理由は、「売上高の減少」「製品価格の下降」が今期も高いポイントとなっている。「売上高の減少」を理由とするポイントは前期より増加している。「原材料高」を理由とするポイントも前期比高く、「製品価格の下降」は今期やや減少した。

収益状況（黒字－償却後赤字）

種別	D.I. (%)													
	19年				20年				21年				22年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
黒字	43.5	43.0	38.3	41.9	39.1	34.7	34.3	36.6	25.0	19.0	23.5	27.0	18.4	21.5
収支トントン	37.3	38.4	41.9	38.6	41.3	44.1	44.1	40.4	39.6	41.1	42.6	51.3	58.2	58.7
償却後赤字	19.3	18.6	19.8	19.5	19.7	21.2	21.6	23.0	35.4	39.9	33.9	21.7	23.4	19.8
D.I.	24.3	24.4	18.5	22.4	19.4	13.5	12.7	13.6	-10.4	-20.9	-10.3	5.3	-4.9	1.7



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は、前期比15.6ポイント改善し+5.3となった。4期ぶりに、黒字とする回答が赤字とする回答を上回りプラスポイントとなった。先行きについては、22年1～3月期は▲4.9と悪化予想となっている。22年4～6月期予測では、1.7であり、前期より改善予想である。収益状況も21年4～6月期を底として、改善されている。

V. 製品在庫水準

製品在庫水準

(%) 見込 予測

期別 種別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不足	2.4	2.8	4.4	1.6	1.7	2.7	3.3	1.5	1.5	2.2	3.5	3.1	3.5	2.8
適正	84.9	84.9	82.6	85.5	86.3	86.2	85.1	86.0	78.0	79.2	84.0	83.5	83.5	85.8
過剰	12.7	12.3	13.1	12.9	11.9	11.1	11.6	12.5	20.5	18.6	12.5	13.3	12.9	11.4
D . I .	-10.3	-9.5	-8.7	-11.3	-10.2	-8.4	-8.3	-11.1	-19.0	-16.4	-9.0	-10.2	-9.4	-8.7

製品在庫水準 (うち製造業のみ)

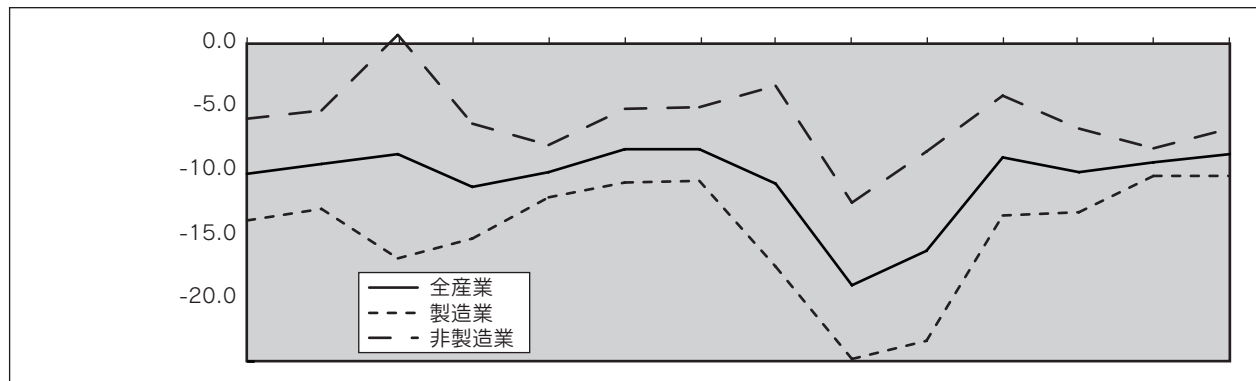
(%) 見込 予測

期別 種別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不足	1.1	2.3	2.3	1.1	1.3	1.2	2.6	1.4	0.7	2.1	4.5	3.7	4.4	2.2
適正	83.9	82.3	78.5	82.4	85.3	86.6	84.0	79.7	73.8	72.4	77.4	79.3	80.7	85.1
過剰	15.0	15.4	19.2	16.5	13.5	12.2	13.5	18.9	25.5	25.5	18.0	17.0	14.8	12.7
D . I .	-13.9	-13.1	-16.9	-15.3	-12.2	-11.0	-10.9	-17.6	-24.8	-23.4	-13.5	-13.3	-10.4	-10.4

製品在庫水準 (うち非製造業のみ)

(%) 見込 予測

期別 種別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不足	4.0	3.3	6.7	2.1	2.2	4.5	4.2	1.6	2.3	2.3	2.4	2.5	2.5	3.3
適正	86.1	88.0	87.2	89.4	87.6	85.8	86.7	93.5	82.8	86.8	91.1	88.3	86.7	86.7
過剰	9.9	8.7	6.0	8.5	10.2	9.7	9.2	4.9	14.8	10.9	6.5	9.2	10.8	10.0
D . I .	-5.9	-5.3	0.7	-6.3	-8.0	-5.2	-5.0	-3.3	-12.5	-8.5	-4.1	-6.7	-8.3	-6.7



- (1) 全産業の製品在庫水準「不足-過剰」D.I.は、21年10～12月期は▲10.2となり、前期比1.2ポイントの悪化となっている。先行きについては、22年1～3月期▲9.4、4～6月期は▲8.7と過剰の回答となっている。在庫については、過剰感が高くなった回答となった。
- (2) 21年10～12月期の業種別では、木材業▲66.7、不動産業▲66.7が過剰感の高いポイントとなった。木材業は前期も高い過剰感であった。前期▲50ポイントであった高岡銅器もまだ、過剰感が高いが改善となっている。プラスチック、木工建具もやや改善となっている。

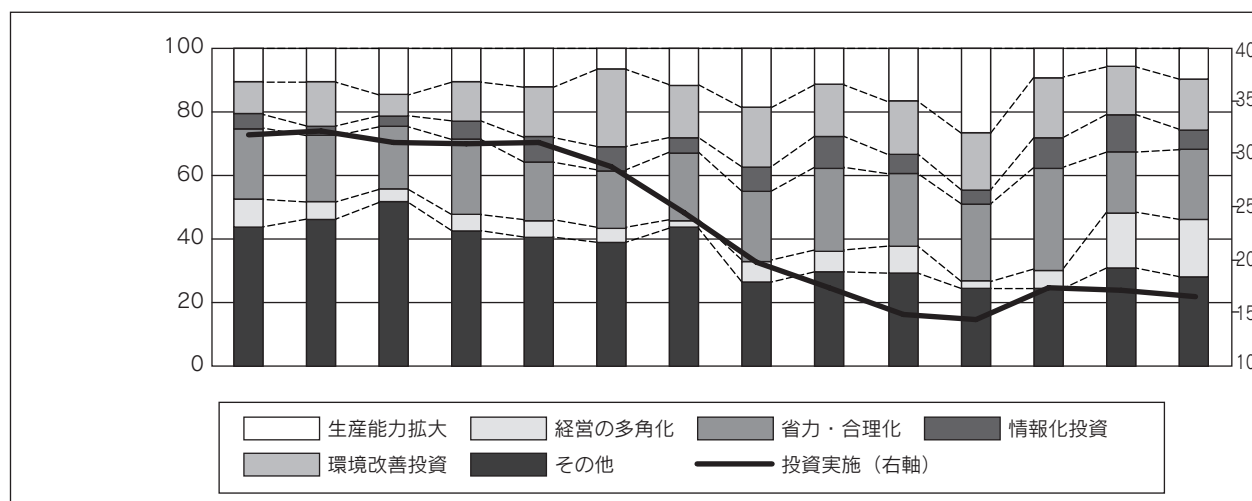
VI. 設備投資動向

設備投資の有無

期別 種別	(%)														見込	予測
	19 年				20 年				21 年				22年			
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月		
投資実施	31.8	32.2	31.4	30.9	31.1	28.8	24.4	19.8	17.3	14.8	14.4	17.4	17.1	16.5		
投資せず	68.2	67.8	68.6	69.1	68.8	71.2	75.6	80.2	82.7	85.2	85.6	82.6	82.9	83.5		

設備投資の目的（実施先について）

	(%)													
生産能力拡大	43.8	46.2	51.6	42.6	40.4	38.7	43.5	26.6	29.5	29.2	24.4	24.5	30.8	28.0
経営の多角化	8.5	5.4	4.1	4.9	5.3	4.7	2.4	6.3	6.6	8.3	2.2	5.7	17.3	18.0
省力・合理化	22.3	20.8	19.7	23.8	18.4	17.9	21.2	21.9	26.2	22.9	24.4	32.1	19.2	22.0
情報化投資	4.6	3.1	3.3	5.7	7.9	7.5	4.7	7.8	9.8	6.3	4.4	9.4	11.5	6.0
環境改善投資	10.0	13.8	6.6	12.3	15.8	24.5	16.5	18.8	16.4	16.7	17.8	18.9	15.4	16.0
その他	10.8	10.8	14.8	10.7	12.3	6.6	11.8	18.8	11.5	16.7	26.7	9.4	5.8	10.0



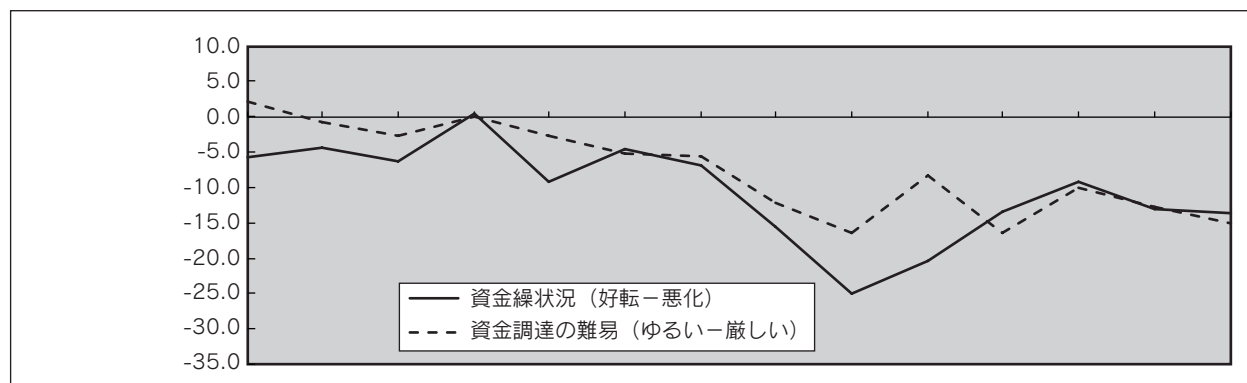
- (1) 21年10～12月に設備投資を実施した企業は全産業の17.4%と、3.0ポイント増加した。省力・合理化を目的とした回答が、前期比高いポイントとなっている。また、生産能力拡大を目的とした設備投資も24.5%と高い回答であった。先行きの22年1～3月期も17.1%となっている。製造業と非製造業では、製造業の22%、非製造業が13.4%が設備投資を行った。
- (2) 業種別では、電子部品製造の設備投資が高く、目的は省力・合理化であった。繊維、宿泊業、運送業の設備投資も高いポイントとなった。先行きについても、電子部品製造のポイントが高く、次に出版印刷紙加工、医薬品製造、と高くなっている。生産販売能力拡大を目的とする回答が増加してきている。

VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
好 転	8.1	6.8	5.9	10.4	7.4	8.5	6.0	4.4	5.0	6.2	7.7	5.9	4.2	5.9
変 わ ら ず	78.1	82.0	81.7	79.6	76.0	78.4	81.0	75.5	65.0	67.3	71.0	79.1	78.4	74.4
悪 化	13.8	11.3	12.4	9.9	16.7	13.2	12.9	20.1	30.0	26.5	21.3	15.0	17.3	19.7
D . I .	-5.7	-4.5	-6.4	0.5	-9.3	-4.7	-6.9	-15.7	-25.0	-20.4	-13.5	-9.2	-13.1	-13.8



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

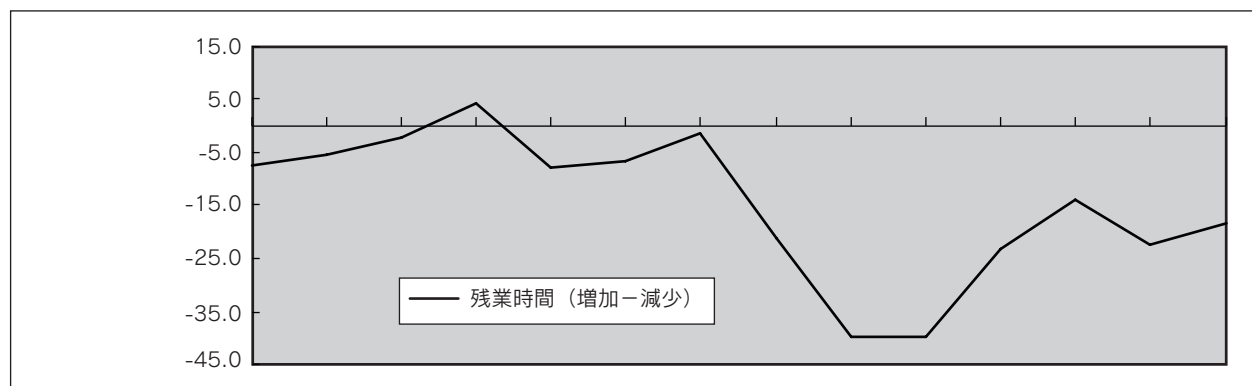
期別 種別	19 年				20 年				21 年				22年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
ゆ る い	13.6	11.6	10.6	10.4	12.2	7.9	7.5	5.9	4.4	5.9	5.1	7.3	7.0	6.4
厳 しく ない	75.0	76.1	76.0	79.3	72.8	79.0	79.3	75.9	74.9	79.9	73.3	75.4	73.3	72.2
厳 し い	11.4	12.3	13.4	10.4	15.0	13.1	13.2	18.1	20.7	14.2	21.5	17.3	19.7	21.4
D . I .	2.2	-0.8	-2.8	0.0	-2.8	-5.2	-5.7	-12.2	-16.3	-8.3	-16.4	-10.0	-12.7	-15.1

- (1) 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は、前期比6.9ポイント改善され▲9.2となった。先行きについては、▲13.1とポイントとやや悪化の見込であった。資金繰りは、改善しているが先行きはまた悪化ポイントが高くなる予想となっている。
- (2) 資金調達の難易D.I.「ゆるい－厳しい」では、前期比6.4ポイント改善している。先行きについては、▲12.7と悪化見込となっている。まだ、厳しい状況とかがわかる。業種別では、医薬品製造、鋼材建材販売、機械工具販売、電子部品製造が「ゆるい」の回答が高い。しかし、繊維▲54.5、不動産▲50.0と「厳しい」との回答の企業もある。

VIII. 労務事情

残業時間

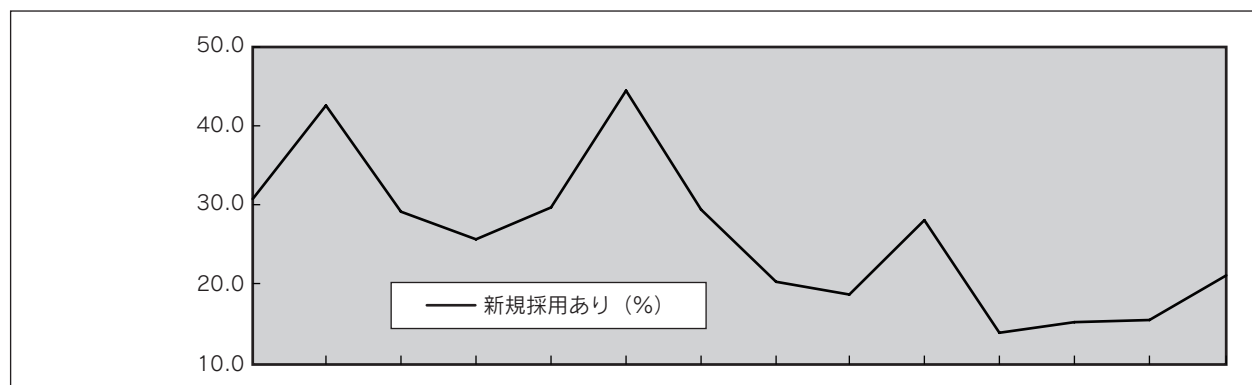
期別 種別	19 年												20 年				21 年				22年	
	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～								
	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月								
増加	15.6	14.0	15.1	18.7	14.3	12.4	17.6	10.0	6.5	4.3	11.3	12.1	6.6	6.3								
横ばい	61.3	66.6	67.2	67.0	63.1	68.4	63.4	58.5	47.4	51.6	53.6	61.6	64.2	69.0								
減少	23.1	19.5	17.7	14.4	22.5	19.2	19.0	31.6	46.1	44.1	35.1	26.3	29.2	24.7								
D.I.	-7.5	-5.5	-2.5	4.3	-8.2	-6.8	-1.4	-21.6	-39.6	-39.8	-23.7	-14.2	-22.6	-18.5								



- (1) 残業時間D.I.は10～12月期▲14.2となり、前期比9.5ポイント低くなった。残業時間はやや増加となっている。先行きについては、横ばいとのポイントが増加し、増加とのポイントは減ってきている。業種別では、製造業、非製造業とも減少との回答が前期比減少し、残業は増加している。電子部品製造、医薬品製造、宿泊業は、D.I.がプラスとなり、残業時間が増加の回答。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

期別 種別	19 年												20 年				21 年				22年	
	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～								
	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月								
全産業	30.6	42.5	29.2	25.6	29.7	44.5	29.3	20.1	18.6	28.1	14.0	15.2	15.3	20.9								
(うち製造業)	28.1	41.6	25.4	27.7	30.9	43.2	30.6	18.0	15.0	22.7	10.0	12.9	12.3	19.3								
(うち非製造業)	32.7	43.3	32.5	23.7	28.7	45.7	28.1	22.0	21.5	32.8	17.4	17.2	17.8	22.2								

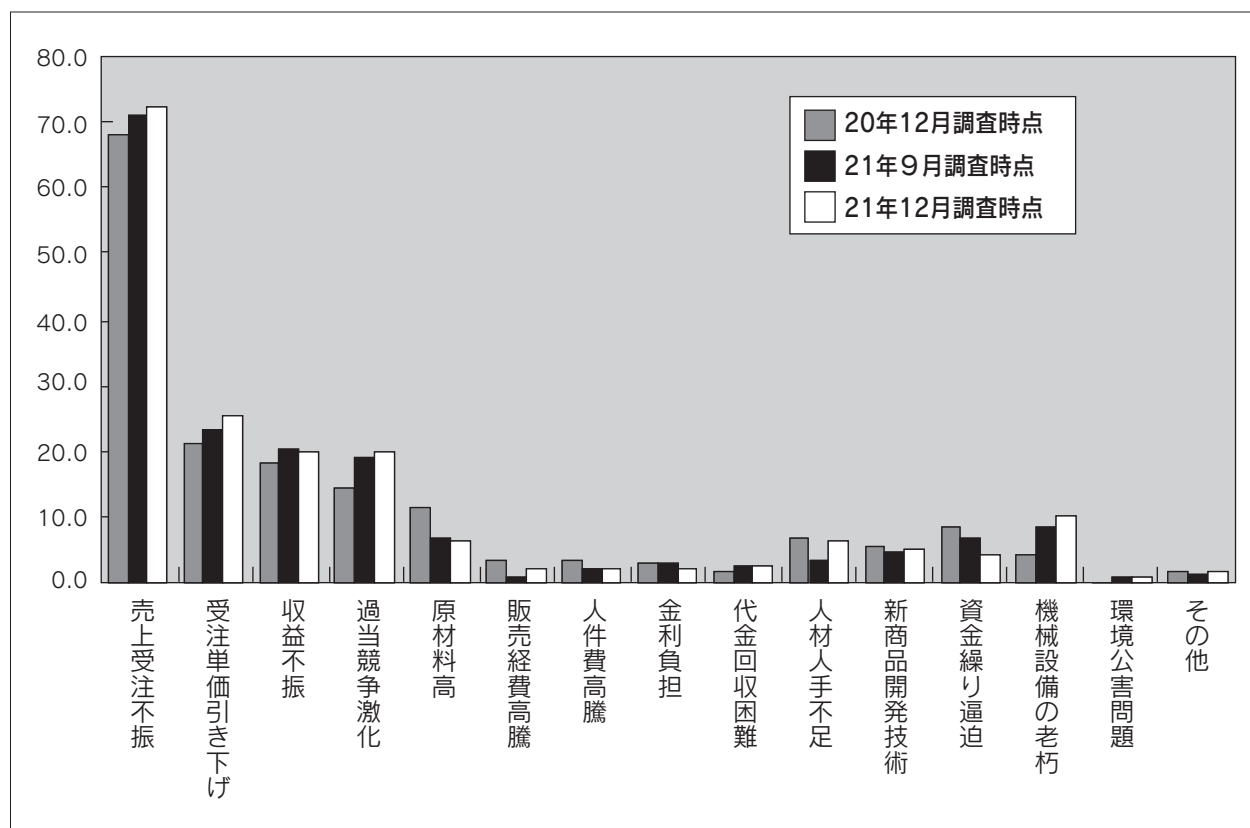


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、全産業について10～12月の採用は全産業で前期比増加となった。前年同期は前期比減少する期間であるが今年度は増加となっている。先行きについても、増加予想となっている。

IX. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり)

	20年12月 (前年)	21年9月 (前回)	21年12月 (今回)	21年12月		前回は増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	67.9	70.8	72.1	(69.5)	(74.4)	1.3
受注単価引き下げ	21.0	23.1	25.2	(31.2)	(20.1)	2.1
収益不振	18.1	20.2	19.7	(18.4)	(20.7)	-0.5
過当競争激化	14.3	18.9	19.7	(11.3)	(26.8)	0.8
原材料高	11.4	6.7	6.2	(9.2)	(3.7)	-0.5
販売経費高騰	3.5	1.0	2.0	(2.1)	(1.8)	1.0
人件費高騰	3.2	2.2	2.3	(0.0)	(4.3)	0.1
金利負担	2.9	2.9	2.0	(3.5)	(0.6)	-0.9
代金回収困難	1.9	2.6	2.6	(0.7)	(4.3)	0.0
人材人手不足	6.7	3.2	6.2	(5.0)	(7.3)	3.0
新商品開発技術	5.4	4.5	4.9	(9.2)	(1.2)	0.4
資金繰り逼迫	8.6	6.7	4.3	(2.8)	(5.5)	-2.4
機械設備の老朽	4.1	8.3	10.2	(14.2)	(6.7)	1.9
環境公害問題	0.6	1.0	1.0	(1.4)	(0.6)	0.0
その他	1.9	1.3	1.6	(2.1)	(1.2)	0.3



- (1) 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振72.1%(前期+1.3ポイント)、②受注単価引き下げ25.2%(前期比+2.1ポイント)③収益不振19.7(前期比▲0.5ポイント)の順になっている。
- (2) 今回調査でも、前期と同じ回答が上位となっているが、人材人手不足、機械設備の老朽とするポイントも増加している。
- (3) 業種別では、木材業、機械工具販売、宿泊業、不動産業が「売上受注不振」との回答が100%となった。百貨店スーパー小売では「過当競争激化」、医療福祉は、「人材人手不足」が高いポイントとなっている。